



物語部門

あずきの絆

ぼくが図書室で出会った妖怪

高森 美由紀/作

(岩崎書店)

91・夕

転校してきたばかりの小学5年生の蓮は、妖怪の本を読むのが大好き。学校の図書室で借りた本に、生のあずきのはさまっていたことと、帰り道に橋の下から変な音が聞こえてきたことで、妖怪「小豆洗い」がいるのではないかと考える。数日後の放課後、6年生の図書委員の野田さんと図書室にいと、ザルをかかえた赤ら顔の小豆洗いが現れた。二人と出会ったことで、蓮のさえない日常が変わり始める。



物語部門

起業家フェリックスは12歳

アンドリュー・ノリス/著
(あすなろ書房)
93・ノ

ちょっとした思いつきから始まったビジネスが大成功!親友のモーが描いたカードの販売は好評で、だんだんと注文が増えていく。パソコンにくわしいネッドと数学の得意なエリーを仲間に加え、ホームページを立ち上げると、売り上げはますますアップ。大人には秘密にしていたが、プリンターが故障するアクシデントが起こり、仕方なく両親に打ち明けると、強力な助っ人が現れる。

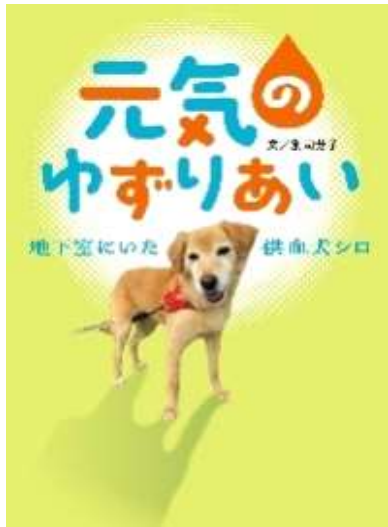


物語部門

パフィン島の灯台守^{とうだいもり}

マイケル・モーパーゴ/作
(評論社)
93・モ

5歳のぼくは、船で母とイギリスに向かっていた。生まれてすぐ亡くなった父の実家に身を寄せるためだ。だが、航海の途中船は嵐にあい沈没してしまう。乗員30人を助けてくれたのは、パフィン島の灯台守、ベンジャミン・ポスルスウェイトだった。救命艇が来るまで灯台の家に招いてくれた彼は無口な人だった。家の中は彼の書いた絵でいっぱいだった。救命艇で島を去る時、灯台守はぼくが一番気に入っていた絵をくれる。イギリスへ行っても彼のことを忘れられなかったぼくは、学校を卒業しパフィン島へと向かう。



元気のゆずりあい
地下室にいた供血犬シロ

別司 芳子/文
(フレーベル館)
64・ベ

ケリーさんはボランティア活動に取り組むなかで動物病院の地下で飼われていた犬たちに出会う。動物を助けるはずの動物病院で虐待ともいえる環境におかれた犬たちは、輸血の際、血を提供するために病院で飼われている供血犬だった。ケリーさんは、この犬たちに幸せに生きてもらいたいと行動をはじめます。それはただ目の前の犬を救いたいというだけでなく、動物にとっての幸せ・アニマルウェルフェアの考えに基づいてのことだった。



物語部門

金色の羽でとべ

高田 由紀子/作
(小学館)
91・タ

空良と玲が所属するバレーボールクラブ「佐渡ゴールドウィングス」に転校生の大和が入会してきた。ずば抜けてうまい大和に空良は希望していたポジションを取られ、さらにはキャプテンまで任され動揺する。大和は感情をおさえられなくなると手が出してしまう。バラバラになりそうなチームが一丸となることはできるのか!?



物語部門

草の背中

吉田 道子/著
(あすなろ書房)
91・ヨ

咲の祖母こよみさんは、いつも「心にぴったり合う言葉」を使って話をしてくれた。咲が11歳の誕生日を迎えた日、こよみさんは「今度、私の11歳のときの話をするね。」と言った。でも、体が悪かったこよみさんから話を聞くことはできなかった。こよみさんが亡くなった後、残された家計簿を見ていた咲は手紙を見つける。咲への手紙には、こよみさんが11歳の時の話が書かれていた。こよみさんが伝えたかったことは…。



西の果ての白馬

マイケル・モーパーゴ/作
(徳間書店)
93・モ

イギリスの南西、コーンウォール半島の先端にゼナーという小さな村がある。大昔からこの村でおこる説明のつかないできごとが、物語となっている。人魚や妖精、小鬼などが登場する連作短編集で、作者のモーパーゴはぜひ順番に読んでほしいと言っている。悲しい話もあるが、順番に読むと時の流れを感じ、最後まで読み進んだときに納得のいく物語となる。



生き物たちが先生だ

針山 孝彦/著
(くもん出版)
460・ハ

チクチクした植物「引っつき虫」をヒントに作られた面ファスナー、水をはじくハスの葉をヒントに作られたヨーグルトのふた、ヤモリの指先を真似たすべりにくい手ぶくろなど、私たちの生活には、生き物が持っているしくみを活かしたものがたくさんある。このバイオミメティクスという研究は、電子顕微鏡での大発明が前進のきっかけになっている。常識は変えられる。そして未来を変えていこう。



命をつなぐセラピードッグ物語

大木 トオル/著

(講談社)

64・オ

セラピードッグとは、お年寄りや病気の人に寄りそい、つらい気持ちをやわらげたり、リハビリをはげましたりする犬のこと。かつては優秀な犬しかできないと思われていたが、今、大木さんのもとで活躍するセラピードッグは、震災で飼い主と離れてしまった犬や山で生まれた野犬など雑種犬だ。どんな生まれや育ちでも、環境と教育で立派なセラピードッグになれることを大木さんは確信している。人も犬も幸せになれる日本を目指す取り組みを描く。



物語部門

きみの話を聞かせてくれよ

村上 雅郁/作
(フレーベル館)
91・ム

ずっと仲良しでいられると思ったのに、たった一言でけんかをしてしまった六花と早緑。だれよりも自由でいたかったのに、自分のイメージにしばられる羽紗。保健室登校になってしまった妹に何もできない正樹…。新船中学校の生徒たちに悩みはつきない。でも、だれかに話すことで、気持ちが変わっていくこともある。良輔もその一人。だからこそ「聞かせてくれよ」という言葉を友達に投げかける。7人のエピソードが連なり、もつれた系がほどけていく。

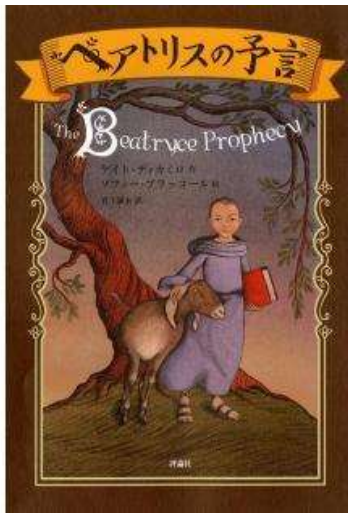


物語部門

ドアのむこうの国へのパスポート

トンケ・ドラフト/作
リンデルト・クロムハウト/作
(岩波書店)
94・ド

ラウレンゾーのクラスはいつも騒がしかったが、トム先生が本を読んでもくれるときだけはみんな静かになる。ある日、先生のお気に入りの作家、ラヴィニア・アケノミョージョにクラスのみんなで質問の手紙を送ると、「二人だけ、わたしの家にいらっしやい」という返事が届く。クラスの中からラウレンゾーとテヤが選ばれ、家に行くと、そこには、特別なパスポートとビザがなければ入れないコスモポリタン連邦へと続く閉ざされたドアがあった。そのことを知ったクラスのみんなは、パスポートとビザを手に入れるため、ラヴィニアから送られてくる課題に挑む。



物語部門

ベアトリスの予言

ケイト・ディカミロ/作
(評論社)

93・デ

物語の舞台は、ごく一部の人のみに文字を読むことが許された世界。ベアトリスは文字の読み書きができるが、そのことは隠しておかなければならない。記憶をなくして修道院のヤギ小屋でたおれていたベアトリスは、エディック修道士やジャック・ドリーらの助けを得ながら回復し、自分が何者なのか、何をなすべきなのか、少しずつ記憶を取り戻していく。一方、この国の王は、修道院に保管されているある予言を恐れて“ひとりの少女”を探していた————。



物語部門

地図と星座の少女

キラン・ミルウッド・ハーグレイブ/作
(岩波書店)

93・ハ

地図職人の父親と暮らしているイサベラは、ジョヤ島の守り神アリンタの伝説を信じている。しかし何年か前に外国から大きな船でアドーリ総督がやって来て、ジョヤ島の全ては変わってしまった。島の一部は閉鎖され、森は危険な場所として立ち入ることが禁止された。ある日、総督の横暴によって少女が行方不明になったことで、イサベラは総督の娘ループを責めてしまう。少女を探すため、一人で禁じられた森へ入ったループを追って、イサベラも危険な森へ向かう。



物語部門

かげふみ

朽木 祥/作
(光村図書出版)
91・ク

夏休みになった拓海^{たくみ}は、水ぼうそうにかかった妹より先に一人で広島のおばあちゃんの家に来た。雨続きのお天気におしゃくしゃしている拓海に、おばあちゃんは向かいの児童館へ行ってみよう勧める。児童館で近所の子供たちと仲良くなり一緒に遊ぶようになるが、拓海は初日に図書室で見かけた女の子のことが気にかかっていた。ある時図書室で声をかけてみると、女の子は「影の話をさがしている」と拓海に教えてくれる。



物語部門

ぼくたちのいばしょ

蒔田 浩平/作
(文研出版)
91・マ

春馬と秀則はクラスの新聞委員。そこにネパールから来たサラダが加わることに！サラダは日本語が話せず、クラスの女子からも浮いていた。秀則の提案で毎日5個ずつ日本語を覚えることにしたサラダ。秀則と春馬は代わりにネパール語を覚えた。一緒に言葉の修行をするうちに、春馬はお互いを知らないことが誤解を生むと気づく。運動会が近づき、女子たちは借り物競争でサラダに難しい日本語のお題を出そうと企^{たくら}んでいるが、春馬・秀則・サラダは今までとは違う新しい運動会を提案する。



物語部門

エール！主人公なぼくら

室賀 理江/作

(文研出版)

91・ム

運動会の係決めて、クラスの人気者陽介が、真面目な大地を応援団に推薦した。目立つのがきらいな大地だったが、推薦がうれしくて引き受けてしまう。しかし、大地たち白組の応援団長は、キンキン声で頼りない感じがして団員たちは不満そう。そんな時、大地や陽介は義足のランナーモロハシさんと出会う。モロハシさんの走る姿にひきつけられた大地は「応援したい」気持ちを実感する。誰もなりたがらない副団長に立候補した大地。バラバラだったクラスメートや白組に変化が起こる。



物語部門

真昼のユウレイたち

岩瀬 成子/作
(偕成社)
91・イ

大おばさんの家に行くと、食卓にニコニコしながら話を聞いている女の子がいた。姿がぼんやり透けていて向こうの戸棚が見える…もしかして幽霊？！でも大おばさんも一緒にいるのが楽しそう。その他、クラスでいじめにあっても余裕な千可ちゃんの話、公園にいた外国人の話など、4つの物語すべてに幽霊が出てくる。会えたらうれしい幽霊っているのかな。



物語部門

ぼくはうそをついた

西村 すぐり/作
(ポプラ社)
91・ニ

リョウタは、シゲルおじいちゃんから戦争でなくなったミノルという弟がいたことを聞く。小学4年生だったシゲルがいたのは爆心地から離れた小学校だったが、原爆でやけどをおった人々が逃げきていた。十分な処置ができず、亡くなった人もいた。ミノルの行方は最後まで分からず、遺品のみが見つかった。リョウタは原爆ドームに行ってミノルの足跡をたどろうとする。その時、先輩レイもドームに来ていた。レイの曾祖母もまた戦争で息子を亡くしていた。残された人々の心もこわしてしまう戦争を伝える物語。



物語部門

ひと箱本屋とひみつの友だち

赤羽 じゅんこ/作
(さ・え・ら書房)
91・ア

朱莉^{あかり}は学校から帰る途中、ひと箱本屋カフェ「SHIORI」の沙絵^{さえ}さんに出会う。「SHIORI」に行ってみると、普通の本屋さんとは全く違っていた。本が入った箱が積み重なっていて、どの箱もポップや布で飾られている。箱ごとに店主がいるのだ。中でも目を引いた「虹色本屋」の店主は小学生で、自分が書いた物語を売っていると聞き、朱莉は早速その本を買って帰った。一気に読みした朱莉は、「友だちになりたい」と思う。小学生作家の理々^{りり}亜^あと初めて会う日、朱莉はその姿に驚く。理々亜は車いすに乗っていた。



物語部門

図書館がくれた宝物

ケイト アルバス/作

(徳間書店)

93・ア

第二次世界大戦中のロンドン。ウィリアム、エドマンド、アンナのきょうだいは、保護者だった祖母をなくし、家族は三人だけになってしまう。お金持ちだった祖母の遺産も、後見人がいなければ使うことができない。祖母の弁護士から提案されたのは、三人でロンドンを離れて学童疎開に行くこと。そこで新しい家族を見つけることができるかも…というおどろきの計画だった。疎開先での毎日はつらく、目的をかくしながらすごす生活の中で、三人の楽しみは村の図書館に行くこと。三人が幸せになれる新しい家族なんて本当に見つかるのだろうか？

☆本好きの三人が読んでいた物語のほとんどは福井市の図書館にあります。



物語部門

葉っぱの地図

ヤロー タウンゼンド/作

(小学館)

93・タ

12歳のオーラは、庭で野菜や草花を育て、薬草を作り、一人で暮らしている。植物と話すことができることは秘密だ。ある時、草木に黒い点々がついていることに気がついたオーラは、植物たちに「森へ行け」と言われ、嫌な予感におそわれる。一方、ハインド屋敷の主人アトラスは「他の町で流行している病気が近々この村にも入ってくる、原因は草花だ」と言ってオーラの庭を破壊しようとする。死んだ母さんが残してくれた手帳に、解決の手がかりがあると信じて、オーラは病の原因をつきとめ薬草を探す旅に出る。



ニワシドリのひみつをもとめて

鈴木 まもる/著
(理論社)
488・ス

ニワシドリ科の鳥のオスは、子育てのための巣ではなく、メスにプロポーズするためのアズマヤを作る。枯れ枝や草を材料に、おわんや塔、家のような形のアズマヤを作り、そこに色とりどりの木の実や花、カタツムリのカラなどを集める。どうしてニワシドリはそんなものを作るのか？絵本作家で、鳥の巣研究家の鈴木まもるさんは、子どもころからのなぞを解明するため、オーストラリアとニューギニア島に向かう。



アフリカで、
バッグの会社ははじめました

江口 絵理/著
(さ・え・ら書房)
28・ナ

ウガンダでバッグ工房を立ち上げ、現地の女性を支援している仲本千津さん。でも、彼女たちが貧困だから支援してほしいと思っているのではない。色あざやかなアフリカンプリントの魅力や使い勝手の良さで「選ばれる」バッグを目指している。それは商品がほめられることがウガンダの女性の誇りとなるだけでなく、「これが好き」と自分で選んで買った日本人にとっても身につけることが自信につながるよう願っているからだ。「人の命を救いたい」という思いから、遠回りしながら自分の道を見つけた仲本さんの歩み。



このすばらしき
スナグの国

物語部門

E・A・ワイクスミス/原作
ヴェロニカ・コッサンテリ/作
(徳間書店)
93・ワ

親をなくした子どもたちのための〈サニーベイ子どもの家〉で暮らすピップとフローラは、規則をやぶった罰としてワトキンス先生に船長のところに野菜を届けるよう言いつけられた。二人は軍楽隊の練習をしていた船長たちにいたずらをして逃げだす。〈子どもの家〉に戻る気になれずにいたところ、怪しい女に声を掛けられフローラが車に乗せられてしまった。ピップは車を追い、森の中で逃げ出したフローラと落ち合うが、〈特別なイチイ〉の木の幹の間から別の世界に入り込んでしまう。そこはおとぎ話の生き物たちが暮らす世界だった。



世界一長い鉄道トンネル

ノン
フィクション
部門

笹沢 教一/文
(Gakken)
51・サ

2016年、それまで世界一だった青函トンネルを抜く全長57.1kmのゴットアルド・ベース・トンネルがスイスに開通した。アルプス山脈のゴットアルド峠の地下を貫くトンネルの構想は道路整備が優先され長い間実現しなかった。トンネルを作るには、高額な費用、高い技術など多くの問題がある。「次のミレニアム（千年紀）に向けた持続可能な輸送の実現」を訴え、国民投票を経て建設が決まった。「アルプスというかけがえのない自然と生命を守り、ヨーロッパ全体の輸送を持続可能なものに変えていくため」挑んだ経緯を紹介する。



物語部門

アップサイクル!

佐藤 まどか/作
(ポプラ社)
91・サ

丈、紫月、王ちゃんは夏休みグループ研究のテーマを「アップサイクル」に決めた。捨てられるはずの物を、新しい使い方やデザインでグレードアップさせて再利用する計画だ。初めはまとまらない3人だったが、試作第1号の黒板とミシン台を組み合わせたテーブルがカッコよくできたことに大満足！プロジェクトが一気に加速する。実際にやってみると問題点が見えてくる。それを一つ一つ解決していこうとしていた矢先、事件が起こる。



物語部門

フォグ

マルタ・パラッツェージ/作
(岩崎書店)
97・パ

1880年、13歳の孤児クレイは仲間たちとテムズ川の泥をあさり、お金になるものを拾って生きていた。そこへサーカスの一団がゾウやラクダを連れてやって来た。クレイはチラシに書かれている「野生のオオカミ」を見ようとサーカスにしのびこむ。そこで目にしたのは、霧のような色の美しいオオカミが鉄の棒で調教されているところだった。あんなこと許されない！クレイは「フォグ」と名付けたこのオオカミを逃がし、森に返したいと思う。どんな危険があろうともフォグのために闘う決心をする。



物語部門

5分で本を語れ
チームでビブリオバトル!

赤羽 じゅんこ/作
(偕成社)
91・ア

中学2年生の童夢^{どうむ}は読書部に所属している。3人しかいない部員を増やしたくて、校内ビブリオバトルを企画した。5分間でおすすめの本を紹介し、投票で1位を決める戦いだ。校内バトルは放送部のさくやとの一騎打ちで、本好きの童夢は自信があったのにボロ負けしてしまった。全国大会の舞台上でさくやに勝つため、童夢たちはチームを組んで特訓を始める。本や発表で勝ち負けを競って優劣をつけるなんておかしいんじゃないか？と疑問を持つ童夢だったが、様々なバトルに出場するうちに別の思いがわき上がってくる。(※作中に登場する本のほとんどは図書館にあります。)



物語部門

アオナギの巣立つ森では

にしがき ようこ/作
(小峰書店)
91・ニ

6年生の男の子あおばは、バードウォッチャーのじいちゃんに小遣いをもらう約束で、いっしょに鳥を探していた。そのとき偶然、同じクラスの女の子^{なぎ}と会う。自然を愛する柳は、自分も両親と同じ、日本刀を作る^{どうしょう}刀匠になりたいという夢を持っていた。柳とじいちゃんの影響で、あおばは鳥にも刀にも興味を持つようになる。ある日、あおばと柳は、絶滅のおそれのあるオオタカと、その巣とヒナを見つけて興奮する。しかし、ヒナを売るために巣を盗もうとする密猟者がいるらしいことに気づき、じいちゃんに助けを求める。すると、鳥と自然を愛する大人たちが、巣立ちの日まで巣を見守ろうと立ち上がる。



物語部門

ブラックバードの歌

カチャ・ベーレン/著
(あすなろ書房)
93・ベ

事故で腕に大けがをしてフルートがふけなくなってしまったアニーは、音楽学校へ入学する夢をあきらめてしまう。病院の先生からは、リハビリをすれば元通りにもどって、何でもできるようになると言われていたが、何もする気になれずにいた。そんななか、引っ越し先の空き地で、美しい歌声の二羽のブラックバードと巣の中の卵を見守る男の子ノアと出会う。ノアといっしょに鳥の世話を始めたアニーだったが、ある日、オス鳥の命が奪われてしまう。オス鳥を失い、鳴くことをやめてしまったメス鳥を見たアニーは、再びフルートを手にする。



物語部門

今日もピアノ・ピアノ

有本 綾/作
(Gakken)
91・ア

小学6年生の海斗は、塾に向かう途中、駅でピアノをひくおじいさんに出会う。おじいさんの音色は優しく心にしみた。もっとおじいさんのピアノが聞きたくて駅に通ううちに、海斗はピアノをきっかけに音楽で人とつながることを実感する。おじいさんと孫の花音から、クリスマスに駅で演奏をしてみないかと誘われた海斗は、ピアノの練習を一から始めることに…。勉強も習い事も中途半端で中学受験を控える海斗だったが、家族に内緒で練習にはげむ。やがてピアノの演奏とともに、海斗の心にも変化が起こる。



物語部門

シーリと氷の海の家賊たち

フリーダ・ニルソン/作
(岩波書店)
94・ニ

10歳の少女シーリは、年老いた父と妹のミーキの3人で氷海の島に住んでいる。ある日、シーリとミーキは2人で別の島にベリーを摘みに行く。怖がるミーキを諭し別々の場所でベリーを探したばかりに、1人になったミーキは海賊にさらわれてしまった。海賊にさらわれた子どもは鉱山で働かされ戻ることはないという。シーリはミーキを取り戻すため、旅立った。人々は海賊におびえ、海賊に立ち向かおうとするシーリにも辛く当たる。シーリは様々な立場でそれぞれが弱者を虐げる厳しい世界を目にすることになる。



物語部門

車いすでジャンプ!

モニカ・ロー/作
(小学館)
93・0

エミーは12歳の女の子。車いすで大ジャンプをきめるモトクロス選手にあこがれている。スピードを出して滑っている時や思いきりジャンプしている時は、だれにもしぼられていない気がする。大ジャンプにはもっと高性能の車いすが必要なため、車いす用バッグを作ってオンラインショップで売り、少しずつお金も貯めている。夢に向かって着実に進んでいたが、ある時、学校で起こった事故がきっかけでエミーに介助人がつくことに。介助人はエミーが望んでいる事ではない。パパが作ったジャンプ台での練習も禁止、新しい車いすのことも思わぬ方向に進んでいく…。障がいがあろうとも自分らしくありたい!エミーが声をあげる時が来る。